

ウトナイ湖通信



No.234

2023年11月号



ウトナイ湖周辺の木々は葉が落ち始め、枯れたヨシなどが晩秋の景色を作り出します。シジュウカラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、エナガ(亜種シマエナガ)などの小鳥たちが観察しやすくなります。

ウトナイ湖は、周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

11月のイベント情報

お気軽ガイドウォークinウトナイ湖

11月12日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが 40 分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内するガイドウォークです。荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

定員: 10 名程度

対象: どなたでも

(小学生以下保護者同伴)

事前申込: なし

バックヤードツアー

11月18日(土) 11:00~11:40

普段一般公開をしていない傷病救助のバックヤードを当センターの獣医師がご案内します。

定員: 10 名

対象: どなたでも

(小学生以下保護者同伴)

申込: 11/1~11/17 の

開館時間に電話で当センターへ

初心者歓迎! 自然観察で自然保護センターのボランティア体験講座
~秋の水鳥カウント調査体験~

11月26日(日) 9:30~12:00

内容: 前半は当センターのボランティア活動やウトナイ湖の説明、後半は屋外で水鳥カウント調査を体験いただきます。ご希望の方は受講後に当センターボランティアとしてご登録していただけます。

定員: 5 名程度 対象: 高校生以上

申込: 11/1~11/25 まで、

電話で当センターへ

※当センターのボランティアは本講座を受講した方のみ登録いただけます。

市民ギャラリー 苦小牧水鳥絵画展

会期: 11月10日(金)~12月3日(日)

苦小牧市民の皆さんが描いた水鳥が並びます。



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苦小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間: 午前 9 時~午後 5 時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



~ ウトナイ湖 ~

・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域
・フライウェイ・パートナーシップ

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



キンメフクロウ

原因：衝突事故疑い

搬入直後の様子



リハビリケージ内



8月30日 道内のある地域で、住宅の玄関前に飛べずいたところを保護発見された。希少種であることから、環境省が個体を受け取り、当センターまで搬送。



右の翼が下垂していたため、骨折等がないかレントゲン検査を実施。骨格に異常は認めなかった。安静状態にして経過観察。

9月6日 保護から1週間、飛翔リハビリを開始し、順調に回復。

9月26日 保護から4週間後、保護された地域で無事にリリースとなった。

キンメフクロウ (フクロウ目 フクロウ科)

全長25cm、小型のフクロウ類です。雌雄同色で、顔盤はハート型で黒い縁取りがあり、羽角はありません。森林に生息していますが、移動期には原野、耕地防風林、海岸林などで生息することもあります。地上のネズミ類やトガリネズミ類を捕食し、暮らしています。国の絶滅危惧種に指定されています。

トピックス



秋の自然情報を集めるボランティア体験

当センターではボランティアの皆さんにイベントや調査のサポートをしていただいています。今回はその活動を一般の方に体験いただく講座を開催しました。自然観察路を歩き、コナラとミズナラのドングリを見比べたり、秋の渡りで飛来したヒンクイなどを観察し、マップに記録しました。



秋の渡り鳥 DAY で野鳥に親しむ

例年秋の水鳥の渡りの時期に行なっているイベントを今年も10月14日に開催しました。今回は観察会の他に、野鳥図鑑画家の谷口高司氏にお越しいただきデッサンタイムなどを含めた講演をしていただきました。野鳥好きの方はもちろん、絵を描かれている方の参加もありました。



ボランティアコーナー

当センターのイベントや調査の活動に積極的に参加され、ご自身でも野鳥観察を楽しまれている長橋さんにインタビューしました

当センターのボランティアに登録しようと思ったきっかけを教えてください。【野鳥観察の魅力】長橋 直美 氏

ボランティア体験講座に参加した際に、生き物を取り巻く環境について興味深いお話を聞けたことがきっかけです。

当センターのボランティア活動に参加して、良かったことはありますか？

イベントなどでは参加者さんの楽しそうな表情をみるととても嬉しいです。また、ボランティア活動は、自身の学び場にもなっています。

野鳥観察の、魅力を教えてください。

表情が可愛い、羽の色が綺麗！この美しい声の持ち主さんは誰ですか？などから始まった野鳥観察ですが、その生態系はとても奥が深くどんな場所で暮らすのか、何を好んで食べているのか、その環境についてさらに掘り下げて知りたくなります。また季節毎に会える鳥たちの存在を知り、四季の移り変わりをより身近に感じるようにもなりました。



館内正面生き物掲示板のマグネット作成中の長橋氏

ウトナイ湖 お楽しみコーナー

【ウトナイ湖・クイズ】

ウトナイ湖にオオハクチョウが渡ってきました。秋には、多い時で100羽以上が見られる時があります。日本で見られる鳥の中では最大級の大きさを誇るオオハクチョウの群れは圧巻です。

さて、アイヌの人々は、ハクチョウのことを「レタツチリ」と呼んでいたそうです。チリは鳥という意味なのですが、さてレタはどのような意味でしょうか。次の3つの中から選んでください。

- A. 冬（の鳥）
- B. カモの王様（の鳥）
- C. 白い（鳥）



正解は、最後のページにあります。

公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



facebook



Twitter



ウツナイ湖の レンジャーのおすすめ自然情報



【オオハクチョウ】

全長約 140 cm、体重約 10kg、翼を広げると 218-243cm で、日本に生息する鳥の中では最大級の大きさ。「コォー」と鳴く。



【ホオジロガモ】

全長約 45cm おにぎりのような三角頭で、オスは頬が白いところが特徴である。水中に潜って餌をさがす。



【コゲラ】

全長 15cm。日本で生息するキツツキの仲間の中では、最小の種。鳴き声は、「ギー」と古いドアが開く時のような声である。



【アカゲラ】

全長約 24cm。ウツナイ湖では比較的可見やすいキツツキの仲間。オスは後頭部が赤く、メスは真っ黒である。写真の個体はオス。

いよいよオオワシが渡来する季節になりました。オオワシは、くちばしから尾羽までが 89~102cm、翼を広げると 220~240cm にもなる巨大なタカの仲間です。世界的な分布は、極東ロシアから日本・朝鮮半島・中国北部と局所的なため、海外のバードウォッチャーからは人気があります。そんなオオワシですが、ウツナイ湖では、昨年、11月17日が初認^{※1}でした。今年は、いつ渡来するのでしょうか。我々レンジャーも待ち遠しいです。

※1:初認:シーズン中に初めて観察した日のこと。



ウツナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



facebook



X(旧 Twitter)

自然観察路ガイドマップ【秋】

